

知識の定義を再考しよう

-- 知識科学への期待 --

慶應義塾大学理工学部

櫻井彰人

1

「知識科学」というコンセプト

- インパクトが大きかった
 - 新しい、包括的、、、
 - 社会に必要、時代に合う、、、
 - ユニーク
- 「知識科学研究科」のえらさ
 - 築いてきた
 - 時代の変化、社会のニーズを反映して
 - 仲間を増やしつつ
- 設立後10年、変化は大きい
 - 金融バブル崩壊後が見えないが。

2

もっと「知識」を

- ちょっと異なる視点で
- 「知識」には「価値」あるものだけでなく、
そこら辺にある知識、
少しずつだが繋がっている知識、
というものがある

3

小テーマ

蘊蓄、雑学: 小さな知識

- 知識量のバブル
- 知識の大衆化、大衆の知識化

空気のような知識

- 知識の流出、囲い込み

4

知識量のバブル

- 雑学知識 – 楽しむための知識
- 若者は本を読まなくなった
 - ゆえに、若者は知識不足に陥っている?, or
 - それは、若者は知識過多だから?
- 仮に
 - 知識倉庫の容量は一定
 - Murphy's law の一つ: Data expands to fill any void
 となれば、脳はいつでも知識で一杯
 - なお、こういう法則もある(こっちが上位知識だろう)
 - Garbage abhors a vacuum. It will grow to fill available space.
- 実際、ネット上、テレビ番組中には、溢れている

5

知識の大衆化、大衆の知識化

- 生活知識、仕事知識 - 生きるための知識
- 知識の広がる速度は速くなった
 - 昔でも、悪事千里。「悪事」は言葉が悪いが
 - 今ならなおさら。しかも「必要」ゆえ、なおさら。
- 蓄積場所はアクセス容易、容量は無限 (www)
- 知識は千差万別。

専門家(熟練者、職人、おたく)だけのものではない

 - 「おばあちゃんの知恵」も
 - 失敗集(失敗の本質、失敗学、、、)
 - 成功集(プロジェクトX、技あり! ニッポンの底力、コダワリのVTR等)
- 2008年秋、民放は「ドキュメンタリー」回帰だそうです

6

蛇足 or 閑話休題

- なぜ、そんなに知識を好むのか？
 - くだらない(と思う人がいるかもしれない)知識も含めての話です
 - 多分、人間の業でしょう。Homo sapiens
 - (何かと脳に結びつける、最近の流行にのれば)
発達してしまった脳(記号的な脳ですが)の飢餓感
 - 序に: 安直な方法を選ぶのも人間の業でしょう
 - 合理性、エコを選ぶ、ともいえる。怠け癖ともいえる
 - 序に: homo ludens
 - そこで(かどうかは分かりませんが)人は、他人から見ればつまらないことを大量に記憶し、また、誰からみても下らない知識を貯めこむ

7

空気のような知識

- システム知識(?) – そこにある知識、様式、集団の習慣、自然な動作.
 - 人は困ったとき、パニックのとき、どう動くか、何をするか
 - レストランの客はどう動き何を期待するか
 - ⇒ 郊外型レストランを運営ノウハウ
 - 客はどういう順序でどんな情報を期待するのか
 - ⇒ e-コマースサイト運営ノウハウ
 - 等々
- これらは、あえて記述することはできる(多分)。しかし、普通は、書かずにおかれる。存在さえ知らない
- しかし、何らかの支援システムを作る場合、理解することが必要。
 - 安全性向上、働きやすさ向上、生産性向上等に必須。
- しかし、これらの(支援)システム構築を(海外に)アウトソーシングすると、習慣・世間常識を知らなくても理解できる記述をすることになる
 - (大きな声では言えないが)そうはいかないのが現実ではある
- これは、様々なノウハウの流出に繋がる。
 - ビジネス機会の流出・逸失につながる

8

知識の流出、囲い込み

- ビジネス知識としてみると
- 利益共有集団と知識共有集団とが異なる
 - 利益共有:
 - 企業 > 企業グループ > 企業系列 > 発注元・先
 - 知識共有:
 - プロジェクト(発注元・先) > 企業 > ...
- 知識集団が流動的
 - 海外では人材の流動性高い
 - 受注企業の知財管理は、発注元から制御不能
- 知識は「覆水盆に返らず(覆水定難收)」
 - 戻すことだけでなく、流れの制御さえできない
 - なお、知は、伝承。

9

知識の、ある側面

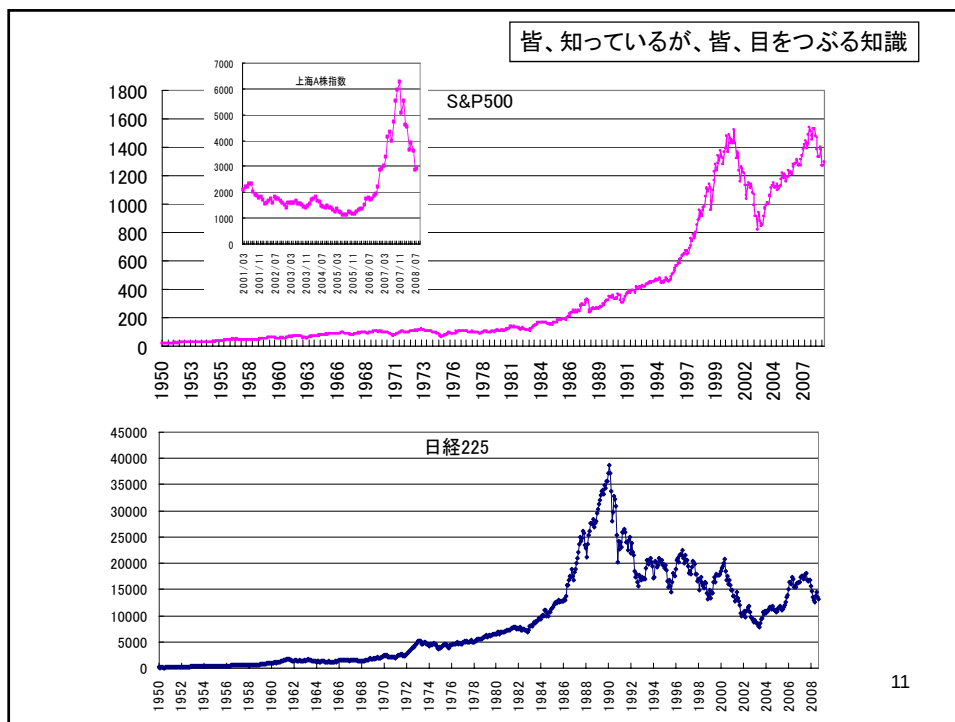
氷滴のような知識

- 楽しむ知識
 - since we are Homo Ludens
 - 今後拡大
- 役立つ知識
 - since we are Homo Faber
 - 先進者(Jaist等)は取り組んでいる

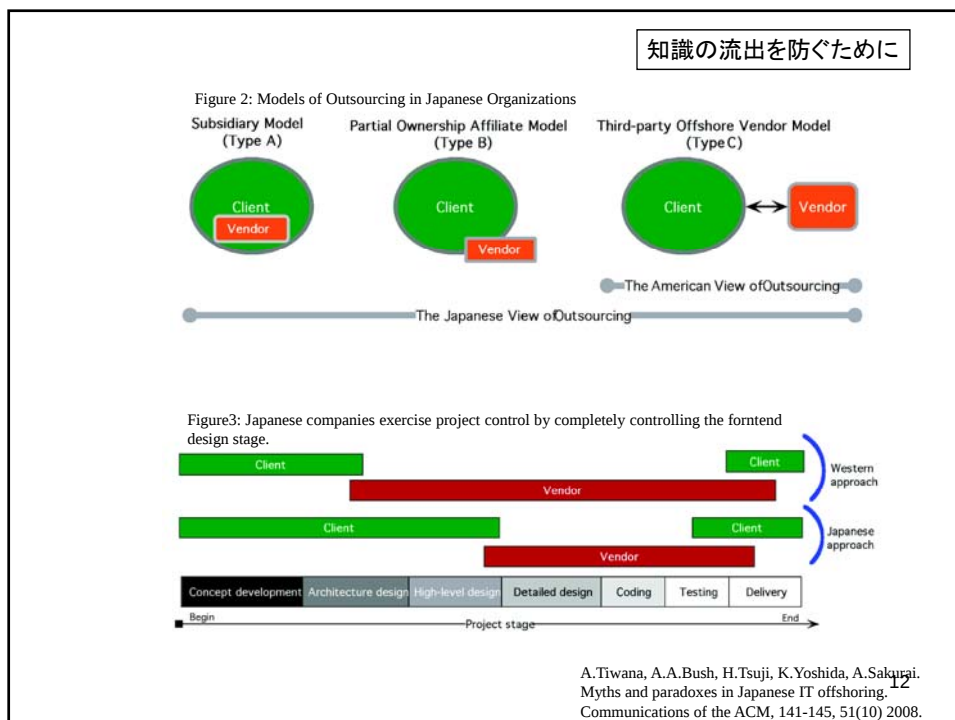
空気のような知識

- ビジネス死命を制する(がtangibleでない)知識
 - ex. 集団として持っている知識、メタな知識、
 - 産業の将来に深く関与
- ビジネス死命を制する(かつtangibleな)知識
 - ex. 特許・設計書(に書いてしまった知識)、

10



11



次の10年

- (仮に、バブルは再来しないでしょう、すなわち、貨幣への過度な執着はないでしょう)

細かい知識

- 多くの人が、知識を楽しむ
 - 料理、著作物(ゲームも)、ダイエット, 知識の交換
- 多くの人が、知を楽しむ
 - モノづくり、知の交流・伝承
- 多くの企業で、知識(+メディア)そのものが利益を生むと考える
 - 新たなサービス

システムを動かす知識

- 知識は容易に流出
 - 流出すると: 生産性の差が小さくなる
 - させないために: 知識の囲い込みが行われる。望ましくはない
- 「知識」も時代により、変わる。
- 知識科学研究は、重要であり続ける